

## イ 緊急事態応急対策拠点施設 (OFC) 運営訓練

- OFCに、国、道、関係13町村、防災関係機関から予め定められた要員(43機関273名)が参集し、機能班などの体制を構築して、事故の状況や関係機関の対応状況を共有し、各種防護対策の検討等を実施した。
- 津波との複合災害を想定した意思決定訓練を実施した(人命へのリスクを踏まえ、津波避難指示に基づく避難行動を優先して、原子力災害に対する防護措置を検討)。

機 関	内 容
内閣府 原子力規制庁 泊原子力規制事務所 北海道 関係13町村 防災関係機関 原子力事業者	<input type="checkbox"/> 現地事故対策連絡会議 (EAL2段階) や原子力災害合同対策協議会全体会議 (EAL3段階以降) を開催 <input type="checkbox"/> 事故・被災の状況や防護対策の状況をスクリーン表示するなど、OFC内の情報共有を強化し、活動を展開 <input type="checkbox"/> ヘリテレ伝送システムやモバイル映像伝送システムを活用した住民避難状況の把握・共有 <input type="checkbox"/> TV会議を開催 [ERC-道庁-OFC-関係13町村] し、情報共有と防護対策の調整、確認を実施 ※一部首相官邸との会議有



<合同対策協議会全体会議>



<機能班の活動>



<総理の緊急事態宣言>

## ウ 緊急時通信連絡訓練

- 事故状況や対応状況等に関する防災関係機関相互の通報連絡を実施した。
- 一般回線や専用回線、防災行政無線などの各種通信手段を用いた通報連絡や情報伝達を実施した。

機 関	内 容
全 機 関	<input type="checkbox"/> 電話及びファクシミリ (一般回線や専用回線)、防災行政無線を用いた通信連絡や情報伝達 <input type="checkbox"/> 避難先自治体等への事故情報の伝達や避難受入要請 <input type="checkbox"/> 各町村の要配慮者施設 (学校・医療機関・社会福祉施設等) や宿泊施設に対する通報連絡



<北海道原子力防災ネットワーク専用回線での通信訓練>



<活動状況表示>

## エ 緊急時環境放射線モニタリング訓練

- 国の統括のもと、OFC内に緊急時モニタリングセンター（EMC）を設置し、国、道、関係町村、原子力事業者、関係指定公共機関と連携して、緊急時における環境放射線のモニタリング活動を実施した。

（195地点、3ルート）

機 関	内 容
原子力規制庁 北海道 関係13町村 原子力事業者 指定公共機関	<input type="checkbox"/> EMCへの要員派遣・設置・運営 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング実施計画に基づくモニタリングの実施、定時報の報告 <input type="checkbox"/> 空間放射線量率の測定・評価、伝送不良固定局への対応 <input type="checkbox"/> 環境試料（飲料水、土壌）の採取、分析 <input type="checkbox"/> 大気中放射性ヨウ素の測定 <input type="checkbox"/> 要員の被ばく管理の実施



<EMCの活動>



<モニタリングカーによる測定>

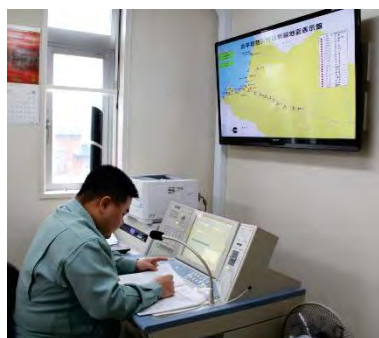


<環境試料の前処理>

## オ 広報訓練

- 関係13町村の住民等に対し、防災行政無線や広報車等による広報のほか、緊急速報メールなど多様な手段を活用した広報を実施した。

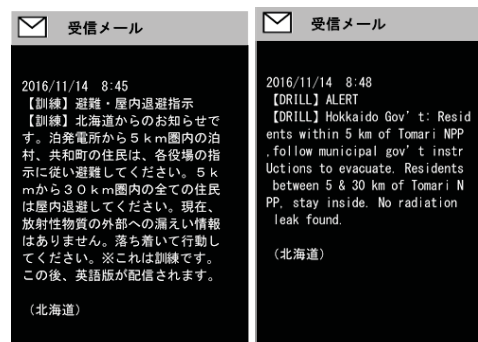
機 関	内 容
北海道 関係13町村 防災関係機関	<input type="checkbox"/> 防災行政無線や広報車、コミュニティFMなどによる住民広報 <input type="checkbox"/> 緊急速報メールを活用し、日本語と英文でそれぞれ避難指示等を配信 <input type="checkbox"/> 北海道のホームページを活用した情報発信



<防災行政無線による住民広報>



<広報車による住民広報>



（日本語）

（英語）

<緊急速報メールによる住民広報>

## カ 住民避難訓練

- 津波との複合災害を想定しながらEAL、OILの判断基準に基づく住民避難・屋内退避等を実施した。
- 住民避難が円滑に行われるよう、避難経路の確保、道路渋滞対策及び一時滞在場所の開設等を行った。

機 関	内 容
北海道 関係13町村 防災関係機関	<input type="checkbox"/> 各町村の退避等措置計画に基づく避難先（一時滞在場所等）への避難 <input type="checkbox"/> 小中学校、高等学校などによる屋内退避・避難 <input type="checkbox"/> 要配慮者（社会福祉施設入所者など）の屋内退避・避難 <input type="checkbox"/> 孤立集落が発生した場合を想定した空路避難 <input type="checkbox"/> 観光客（外国人を含む。）に対する情報伝達や避難誘導 <input type="checkbox"/> 避難受入自治体の協力による一時滞在場所の開設（図上演習も含む。） <input type="checkbox"/> 渋滞予測箇所における警察官による迂回路誘導や交通整理 <input type="checkbox"/> バス運転手等の防護対策（防護資機材の配布） <input type="checkbox"/> 津波被害を受けた避難道路の啓開 <input type="checkbox"/> ヘリテレ伝送システム及びIP無線を活用した動態管理システムによる避難状況の把握

●参加住民数 12,755人（避難909人、屋内退避11,846人）

### 【避難指示区域】

※（ ）内は屋内退避者

区分	町 村 名	避難者数	避難方法
PAZ	泊 村	221 ( 130)	バス14台、自家用車6台、福祉車両1台
	共 和 町	177 ( 663)	バス11台、福祉車両1台
UPZ	岩 内 町	57 (2,042)	バス1台、福祉車両3台
	神 恵 内 村	32 ( 230)	バス1台、自家用車1台、ヘリ1機
	積 丹 町	28 ( 166)	バス2台
	古 平 町	94 ( 610)	バス2台、福祉車両2台、自家用車2台
小 計		589 (3,841)	バス31台、自家用車9台、福祉車両7台、ヘリ1機

### 【その他区域】

町 村 名	避難者数	備 考
UPZ町村合計	320 (8,005)	寿都町、倶知安町、仁木町、余市町は独自訓練として避難を実施

#### <要配慮者対策>

- ・放射線防護施設への屋内退避：泊村むつみ荘～1人、共和町保健福祉センター～1人、神恵内ハイツ998～1人
- ・避難訓練の参加：学校等4施設248人、福祉施設13施設329人

#### <集落孤立対策>

- ・神恵内内地区～ヘリによる避難6人

#### <観光客対策>

- ・観光客などの避難を想定し、ホテル・旅館等との通報訓練（29施設）
- ・日本人観光客を想定した避難（2施設）
- ・外国人観光客を想定し、多言語（英語、中国語、韓国語）による避難誘導（1施設）

#### <一時滞在場所の設置運営>

- ・30km圏外の4自治体（12箇所）で実施 [札幌市、小樽市、留寿都村、苫小牧市]

#### <道路渋滞対策>

- ・迂回路誘導～余市駅前十字街において、警察官が道道登余市停車場線へ交通誘導
- ・交通整理～国道5号線と国道276号線の交差点（国富交差点）において警察官や案内看板による避難車両の交通誘導

＜バスによる避難＞



道道岩内洞爺湖線

＜小学校での屋内退避＞



古平小学校

＜福祉車両による要配慮者避難＞



小樽総合体育館

＜孤立集落におけるヘリ避難＞



神恵内村柵内グラウンド

＜観光客に対する情報伝達と避難誘導＞



日本海ふるびら温泉「しおかぜ」



ニッカウヰスキー工場余市蒸留所

＜一時滞在場所の設置運営＞



小樽総合体育館

＜道路渋滞箇所における交通誘導＞



共和町国富交差点

＜バス運転手へ資機材配布＞



北後志消防組合消防本部

＜小樽建設協会による道路啓開＞



北電臨時ヘリポート (国道229号を想定)

＜ヘリテレ映像＞



道の駅「スペース・アップルよいち」上空から撮影

＜IP無線を活用した動態管理＞



モバイルクリエイト(株)報告書より

**キ 原子力災害医療活動訓練**

- 避難経路上において、避難退域時検査・簡易除染を実施した。
- 避難住民への安定ヨウ素剤の緊急配布等を実施した。
- 泊発電所内の被ばく傷病者に汚染拡大防止措置を行い、医療機関へ搬送し、診療等措置を実施した。

機 関	内 容
北海道 関係町村 防災関係機関 原子力事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 避難退域時検査場所を開設し、避難車両や避難住民の検査、簡易除染を実施するとともに、救護所を設置し、避難住民の健康相談等を実施（道の駅「スペース・アップルよいち」、後志総合振興局）</li> <li>□ 安定ヨウ素剤（模擬）の緊急配布（バス避難集合場所、道の駅「スペース・アップルよいち」等）</li> <li>□ 泊発電所構内で発生した傷病者2名をヘリで札幌医科大学附属病院へ救急搬送</li> <li>□ 同附属病院では、弘前大学からの原子力医療派遣チームと連携して、医療処置を実施</li> </ul>

※ 避難退域時検査実施結果：車両16台、住民65人（うち簡易除染実施：車両3台、住民44人）

<避難車両の検査 (ゲート型モニタ)>



道の駅「スペース・アップルよいち」

<避難車両の検査 (サーバイメータ)>



道の駅「スペース・アップルよいち」

<避難車両の除染>



道の駅「スペース・アップルよいち」

<避難住民の検査>



余市宇宙記念館



余市宇宙記念館

<避難住民の簡易除染>



余市宇宙記念館

<安定ヨウ素剤の配布>



積丹町総合文化センター

<被ばく医療機関への搬送・医療処置>



共和町「憩いの広場」



札幌医科大学附属病院